

第2回CVPフォーラム研究集会

CVP - a New Laser Prostatectomy with Potential Benefits

～ 承認から3年 - CVPの現在地 - ～

日程 2019年9月14日(土) 13:00～16:30

会場 KFC Hall & Rooms 11階 「Room 111」
東京都墨田区横網一丁目6番1号

会長 本間 之夫
日本赤十字社医療センター

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22

TEL: 03-3400-1311 内線: 2101

ご 挨 拶



第2回 CVP フォーラム研究集会
会長 本間之夫
日本赤十字社医療センター院長

第2回 CVP フォーラム研究集会の会長を務めさせていただくに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

前立腺肥大症に対する手術については、社会の高齢化などに伴い、より低侵襲な手技の必要性が高まっています。2016年度より保険収載されたCVP(Contact laser Vaporization of the Prostate：接触式レーザー前立腺蒸散術)は、前立腺肥大症に対する安全で低侵襲な手技として期待されております。しかし、CVPの手技や適応基準、治療成績などについては、議論の余地が大きく残されています。

このような事態を鑑み、2018年1月よりCVPに特化した研究会であるCVPフォーラムが組織されました。会員は既に60名を越えています。昨年には、第1回の研究集会を福井市で開催し、経験豊富な先生方によるシンポジウムを実施いたしました。

今回の第2回の研究集会では、一般演題を募集し、2つのセッションに分けてご発表いただきます。あわせて、ドイツよりCVPのエキスパートであるDr. Igdeを招聘し、特別講演をお願いしております。

ご参加の皆様におかれましては、CVPの普及と発展のために、活発なご討議をお願い申し上げます。

会場案内

KFC Hall & Rooms 11階 「Room111」

【住所】 東京都墨田区横網一丁目6番1号

【交通】 ◎電車をご利用の方

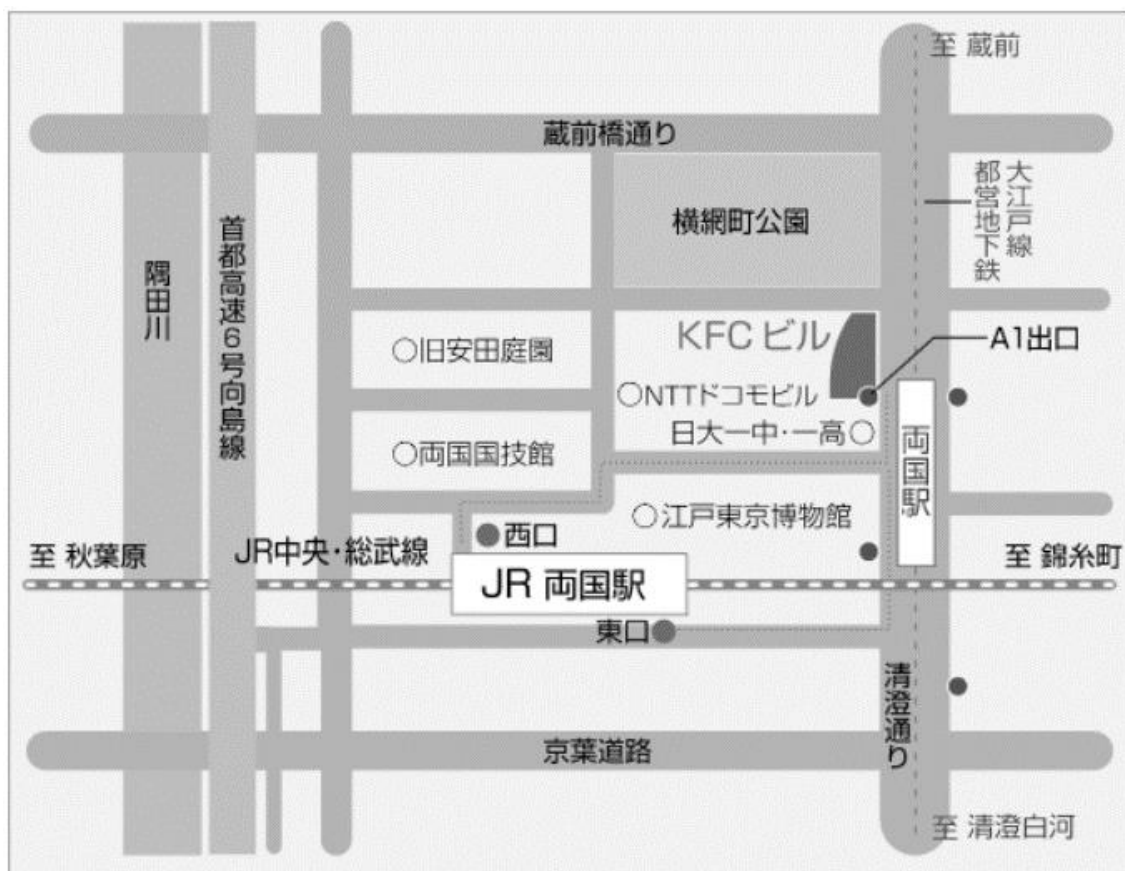
都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1出入口より・・・徒歩0分

JR中央・総武線「両国駅」東口より・・・・・・・・・・徒歩6分。

【駐車場】 KFCビル駐車場（107台）24時間営業

300円/30分 1,400円/当日1日最大

※二輪車の駐輪場はありません。



参加者の皆様へ

1. 日時および会場

日 時：2019 年 9 月 14 日（土） 13:30～16:30

会 場：KFC Hall&Rooms 11 階 「Room111」

（東京都墨田区横網一丁目 6 番 1 号）

2. 参加受付

日 時：9 月 14 日（土）13:00～

場 所：KFC Hall&Rooms 11 階 「Room111」会場前

会 費：会 員 2,000 円

非会員 5,000 円

※当日 CVP フォーラムへご入会される場合は、会員参加費でご参加いただけます。

※受付時に参加証をお渡しいたします。ネームカードに所属・氏名をご記入のうえ、会場内で必ず着用ください。

※本フォーラムの「年会費受付」も同時に行なっておりますので、お声かけください。

※受付時にプログラム冊子をお渡しいたします。

3. 世話人会

日 時：9 月 14 日（土）12:50～13:30

会 場：KFC Hall&Rooms 11 階 「Room114」

<主催事務局>

日本赤十字社医療センター 院長室

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 TEL: 03-3400-1311 内線: 2101

演者の皆様へ

【口演発表についての注意】

- 1) 発表時間、討論時間を厳守してください。
- 2) 発表はすべてパソコンを使用したプレゼンテーション（一面投影）です。
- 3) 発表時間

一般演題	発表 5 分 質疑応答 3 分
------	-----------------

- 4) 発表の 15 分前までに会場の前方にご着席ください。
(次演者札の準備はございません。)

【PC 発表についての注意】

- 1) PC 受付
※会場下手の PC オペレーター席へ直接データをお持ち込みください。

日程	時間	場所
9 月 14 日 (土)	12:00 ~13:15	KFC Hall&Rooms 11 階 「Room111」

- 第 2 回 CVP フォーラム研究集会が始まる 15 分前までに、会場下手の PC オペレーター席にて試写をお済ませください。
- PC オペレーター席ではデータの修正をお受けできません。レイアウトの修正のみとし、データの修正等は事前に済ませてから会場へお越しください。
- PowerPoint の「発表者ツール」機能は使用できません。
- ご発表データは会場のパソコンに一時保存いたしますが、これらのデータは学会終了後、責任を持って消去いたします。
- 事務局にてご用意しております PC (Windows) には PowerPoint2010・2013・2016 をインストールしております。同環境にて正常に作動するデータをご用意ください。
- 動画データは、Windows Media Player 初期状態にて再生される動画ファイルを推奨します。(WMV 形式を推奨いたします)
動画形式によっては PowerPoint 上で再生されないものもございますので事前確認をお願いします。
- 静止画像は JPEG 形式で作成されることをお勧めします。

- 文字ずれの原因となりますので特殊なフォントの使用は避け、標準フォントをお使いください。
- 画面の解像度は、XGA（1024×768）をお願いします。
- CD-R または USB フラッシュメモリーのウイルスチェックを事前に行ってください。

2) 以下の場合についてはご自身の PC をお持ち込みください。

- 動画を使用される場合（PC を持参しない場合は動画形式を必ずご確認ください。）
- Macintosh を使用される場合

3) PC 持込時の注意事項

- 発表データのファイル名は、【セッション No. ・施設名・氏名】としてください。
- 発表データのショートカットは、デスクトップ上に置いてください。
- 会場下手の PC オペレーター席にてデータの確認を行い、オペレータにお渡し頂き、研究集会終了後ご自身でお引き取りをお願いいたします。
- 会場での接続端子は、D-sub15pin タイプです。PC の外部モニター出力端子の形状をご確認ください。変換アダプターが必要な場合はご持参ください。



D-sub15 ピン（ミニ）
例

変換アダプター

- 接続トラブルなどの場合に備え、バックアップデータを必ずお持ちください。
- 動画の参照ファイルがある場合は、全てのデータを同じフォルダに入れてください。
- 動画データがある場合、事前に動画が外部出力されることをご確認ください。
- AC アダプターは必ずご持参ください。
- メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてください。

第2回 CVP フォーラム研究集会 プログラム

「承認から3年 - CVP の現在地-」

CVP - a New Laser Prostatectomy with Potential Benefits

●開会の挨拶 会長 本間之夫（日本赤十字社医療センター） 13:30～13:35

●会員総会 代表世話人 本間之夫（日本赤十字社医療センター） 13:35～13:40

●一般演題（12 演題） *発表5分 質疑応答3分 13:40～15:20

- Session 1 -

座長：山口 秋人（原三信病院） / 鶴 信雄（鶴泌尿器科クリニック）

1. たかの橋中央病院における接触式レーザー前立腺蒸散術（CVP）の導入
○岡 清貴、金岡 隆平、林 睦雄（たかの橋中央病院 泌尿器科）
2. CVP における尖部処理方法の検討
○長澤 丞志（富山西総合病院 泌尿器科）
3. 当院における CVP と TURP の比較検討
○佐藤 雄二郎、石川 晃、葉梨 輝、近藤 秀幸、本間 之夫
（日本赤十字社医療センター 泌尿器科）
4. 九州中央病院における経尿道的前立腺蒸散術（CVP）の初期経験
○出嶋 卓、澄川 涼太、岡田 達憲、宋 裕賢、関 成人
（九州中央病院 泌尿器科）
5. CVP の安全性と有効性に関する臨床的検討
○野村 博之、永川 祥平、魚住 友治、横溝 晃、内藤 誠二、山口 秋人
（原三信病院 泌尿器科）
6. CVP100 例の初期治療成績 工夫とトラブル事例
○狩野 武洋、松永 欣也、谷川 史城、浅山 縁、井 秀隆、鍋倉 康文、野尻 明弘
（熊本泌尿器科病院）

- Session 2 -

座長：宮内 聡秀（大分泌尿器科病院） / 河野 義之（小林病院）

1. CVPの基本手技を目指して
○宮内 聡秀（大分泌尿器科病院）
2. 誰でも完遂可能な CVP の手術手順を目指して
○駒井 資弘、元木 佑典、村上 彰悟、中本 喬大、三島 崇生、西田 晃久、室田 卓之
（関西医科大学総合医療センター腎泌尿器外科）
3. 接触式前立腺レーザー蒸散術（CVP）と PVP-HPS の初期 30 例の比較検討
○鶴 信雄¹、麦谷 壮一²、佐藤 滋則²
（鶴泌尿器科クリニック¹、すずかけセントラル病院²）
4. CVP 術中のリアルタイム排液温度測定
○青山 真人、山本 与毅、上川 禎則（大阪市立総合医療センター）
5. LEONARDO180 の使用経験
○河野 義之、小川 雄一郎（小林病院）
6. CVP における膀胱内に突出した中葉肥大に対する手術手技
○加藤 忍、渡邊 肇（かとう腎・泌尿器科クリニック）

………… 休憩 ………

●前向き研究 中間報告 15：30～15：40

座長：本間 之夫（日本赤十字社医療センター）

演者： 関 成人（九州中央病院）

●特別講演 15：40～16：20

座長：松田 公志（関西医科大学）

演者：Hasan Igde（Vivantes Klinikum Am Urban, Germany）

●次期会長挨拶 加藤 忍（かとう腎・泌尿器科クリニック） 16：20～16：25

●閉会の挨拶 会長 本間 之夫（日本赤十字社医療センター） 16：25～16：30

一般演題 抄録集

— Session 1 —

1-1. たかの橋中央病院における接触式レーザー前立腺蒸散術（CVP）の導入

○岡 清貴、金岡 隆平、林 睦雄

たかの橋中央病院 泌尿器科

当院はこれまで前立腺肥大症の手術治療に注力してきた。2014 年 2 月より光選択的前立腺蒸散術（PVP）を導入し 5 年間で 280 症例を経験、また、2018. 3 月よりバイポーラ TUR-P を導入し、二刀流で治療を行ってきた。いずれも治療効果と安全性には満足していたが、近年の患者数の増加や患者背景の多様化により、いずれの術式も課題が浮き彫りになるようになった。PVP においては、不意の出血・蒸散力の不足・手術時間の長さ、バイポーラ TUR-P においては後出血などである。これらを解決すべく、このたび大分泌尿器科病院、宮内聡秀先生全面協力の元、CVP 導入を行った。2019 年 7 月末より稼動予定であり、中四国地方初の CVP 導入となる。学会では CVP 導入までの経緯の紹介と超初期経験の報告を行う。

1-2. CVP における尖部処理方法の検討

○長澤 丞志

富山西総合病院 泌尿器科

CVP は手術時間の短縮、低侵襲化に関して良い手術であるが、腺腫が大きい症例では術後早期尿閉など、尖部の処理に若干の不安が残る印象がある。原法では精丘より遠位は熱の括約筋に与える影響を考え処理しないこととなっていることは承知しているが早期尿閉の症例が重なったこともあり、尖部の処理に着手してみた。小数例ではあるが報告する。

1-3. 当院における CVP と TURP の比較検討

○佐藤 雄二郎、石川 晃、葉梨 輝、近藤 秀幸、本間 之夫

日本赤十字社医療センター 泌尿器科

当院ではCVPを2018年1月から本格導入している。当院で施行されたCVPと、導入以前に施行していたTURPについて比較検討したので報告する。

【方法】2018年1月～2019年4月にCVPを施行された32例と2011年1月～2018年1月にTURPを施行された57例が対象。術前/術後のHb値・IPSS・QOL index・OABSS・Qmax・残尿量・前立腺体積、合併症の有無について比較検討した。

【結果】CVP群・TURP群の平均手術時間は 77 ± 23 分・ 73 ± 22 分、平均入院日数は 6 ± 1 日・ 7 ± 1 であった。Q max（術前/術後）は $12 \pm 6/33 \pm 0$ ml/秒・ $5.9 \pm 4/9.45 \pm 6.7$ ml/秒、残尿量（術前/術後）は $59 \pm 244/28 \pm 10$ ml・ $118 \pm 194/37.5 \pm 22$ mlであった。Hb値の変化は -0.3 ± 0.5 g/dL・ -1.0 ± 1.0 g/dLであった。CVPの合併症は術後尿道狭が1例、尿閉による再入院が2例。TURPの合併症は輸血症例が1例、術後尿道狭窄が5例、UTIによる再入院が1例であった。

【結語】TURPと比較して、CVPはBPHに対して安全に施行できる有効な治療法の選択肢の一つであると思われる。

1-4. 九州中央病院における経尿道的前立腺蒸散術（CVP）の初期経験

○出嶋 卓、澄川 涼太、岡田 達憲、宋 裕賢、関 成人

九州中央病院 泌尿器科

【目的】前立腺肥大症に対して経尿道的前立腺切除術(TUR-P)、光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)が行われているが、近年接触式レーザー前立腺蒸散術(CVP)が行われている。当院でも2017年4月よりCVPを導入した。そこで当院における手術症例に対しての手術成績を報告する。

【対象と方法】2017年4月より2018年3月までに、前立腺肥大症に対してCVPを施行した76症例を検討した。術前尿閉症例は19例であった。術前・術後排尿機能の評価可能な症例（尿閉症例を除く）で、IPSS>8、前立腺重量>30ml、BPHに対して手術歴がない22症例を用いて術前術後排尿機能を検討した

【結果】術中・術後合併症として、後出血を1例、精巣上体炎を3例認めた。IPSSは術前19.6であったが、術後3ヶ月には10.4と有意に改善し、術後12カ月でも10.5と増悪を認めなかった。QOLは術前4.4であったが、術後3カ月は3.2と有意に改善し、術後12カ月でも2.7と良好であった。OABSSは術前7.2であったが、術後3カ月は5.3と有意に改善し、術後12カ月でも4.1と良好であった。Qmaxも術前8.9ml/secであったが、術後3カ月には13.1ml/secと改善し、術後12カ月には14.9ml/secと良好であった。PSAは術前10.5であったが、術後12カ月には3.4と改善した。

【結語】接触式レーザー前立腺蒸散術(CVP)により排尿状態は有意に改善した。

1-5. CVP の安全性と有効性に関する臨床的検討

○野村 博之、永川 祥平、魚住 友治、横溝 晃、内藤 誠二、山口 秋人

原三信病院 泌尿器科

【目的】 出血は少ないものの治療成績に関する報告が少ないため推奨グレード C1 である CVP について安全性と有効性に関して検討した。

【対象】 2017 年から CVP を施行した 80 例を対象とした。

【結果】 平均年齢 72.1 歳、平均前立腺体積 113.3ml、術前尿閉は 48 例、抗血栓療法 19 例はすべて継続のまま CVP を施行した。手術時間は 104.7 分、照射時間は 71.5 分、照射量は 452.5kJ、最大出力は 110W、カテーテル留置期間は 39.8 時間、入院期間は 5 日、合併症は一過性尿閉を 9 例に認めた。術前の IPSS は 21.7、QOL は 5.0、Qmax は 4.3ml /s、残尿量は 246.6ml であるのに対して、術後 1 か月目の IPSS は 10.0、QOL は 1.9、Qmax は 15.6ml /s、残尿量は 52.2ml へと速やかに改善し、術後 2 年でも良好な治療成績が維持されていた。

【考察】 Diode laser は組織深達度が 5mm のため抗血栓療法継続でも安全性が高い一方、厚い凝固層は Nd:YAG laser を用いた VLAP と同様に蒸散効率を悪化させ治療成績にも影響しかねない。Diode laser を蒸散目的で使用する場合、過度な出力は好ましくなく、ファイバの操作方法にも配慮する必要がある。150W 以下、素早いスweepが良好な蒸散を導き出すと考えられた。結論：CVP は安全で効果的な治療法である可能性が示唆された。

1-6. CVP100 例の初期治療成績 工夫とトラブル事例

○狩野 武洋、松永 欣也、谷川 史城、浅山 縁、井 秀隆、鍋倉 康文、野尻 明弘

熊本泌尿器科病院

当院では2018年1月にCVPを導入し2019年5月までに100例超を経験した。1年余りの短期成績であるが良好な効果を上げており、従来のレーザー治療を踏まえた工夫や注意を要する点を併せ報告する。

術後成績は当院で従来行ってきたPVPやHoLEPと比べてほとんど遜色なく、また初期から比較的安全に施行できた。CVPは、本体パワーや耐久性の向上、核出を取り入れるなどの工夫によって、既存の問題点をほぼ払拭しつつあると感じさせる。他のBPHレーザー治療の長所を併せ持ちながらその短所も埋め合わせるポテンシャルを持つと思われる。ただエネルギー強度に関する認識を誤れば思わぬ合併症を（特に導入初期）引き起こしかねず注意を要すると感じた。また核出を取り入れさらに蒸散効率を希求したり、前立腺癌併存症例への適応も模索できるのではと考えている。

今後さらに他の術式、多施設との長期成績比較や新しいアイデアの報告を期待する。

一般演題 抄録集

— Session 2 —

2-1. CVP の基本手技を目指して

○宮内 聡秀

大分泌尿器科病院

CVP (Contact laser Vaporization of the Prostate) は2011年ドイツで初めて行われ、本邦では300Wと高出力かつエネルギー制限がないCeralas HPD 300 TMとTwister Fiber TM が2016年4月に保険収載された。接触照射であるCVPの操作はTURP (Transurethral resection of the Prostate) に近い動きをすることより、TURPに習熟した泌尿器科医は取り組みやすい。CVPは高出力でファイバーを動かし続け、かつレーザーを接触照射し続けることによって蒸散力の向上と厚い凝固層形成の予防を図ることが重要である。その高い蒸散力とほぼ無血野の視野より短時間で手術は終了する。CVPは国内に導入されて間もないため、基本手技が確立されたとは言い難い。

これまでの自験例としてPVP (Photoselective Vaporization of the Prostate) で約700例、CVPで約300症例のレーザー蒸散術の経験より、安全でストレスの少ない、前立腺のサイズに影響されないCVP手技をある程度確立した。今回、CVPの基本手技の確立の一助となるべく、現在行っているCVP手技について動画を多く交えて報告する。

2-2. 誰でも完遂可能な CVP の手術手順を目指して

○駒井 資弘、元木 佑典、村上 彰悟、中本 喬大、三島 崇生、西田 晃久、室田卓之

関西医科大学総合医療センター腎泌尿器外科

CVP (Contact laser Vaporization of the Prostate) は前立腺肥大症手術の中でも比較的新しい手術方法である。新しい手術方法を普及するためには、ある程度、手術手順をマニュアル化した方が良いと考えている。特に手技の言語化は重要である。私に外科的手技を叩き込んでくれた師匠によく言われた言葉に、“一つの視野でしゃぶりつくせるところは全てしゃぶり尽くせ”がある。癒着や特別な理由があれば別であるが、手術をする上で重要なことは闇雲に色々なパートに手を出さずに、一つのパートを事前に考えていた範囲までしっかりと終わらせてから次のパートに進むことであると考えている。こと血流が豊富な前立腺肥大症手術に於いては、色々な場所から出血してしまうと視野不良となり安全な手術が不可能となるため、特に重要であると考えている。

この様な観点から、私が常日頃から目指している、“誰にでも施行可能な普遍的手術”の手順について私見を交えて発表する。

2-3. 接触式前立腺レーザー蒸散術 (CVP) と PVP-HPS の初期 30 例の比較検討

○鶴 信雄¹、麦谷 壮一²、佐藤 滋則²

鶴泌尿器科クリニック¹、すずかけセントラル病院²

【目的】CVP の初期 30 例の結果を同じ蒸散術である PVP-HPS の初期 30 例と比較検討する。

【対象と方法】対象は 2017 年から 2018 年までに当院で CVP を行った 30 例と、2011 年から 2012 年にすずかけセントラル病院で PVP を行った 30 例。術前の患者背景 (CVP, PVP) は、平均年齢 68.9 歳, 67.7 歳 (N. S.)、平均 IPSS 21.9 点, 17.6 点 ($p<0.05$)、平均 OABSS 6.7 点, 5.6 点 (N. S.)、平均 Qmax 8.7ml/s, 8.2ml/s (N. S.)、平均前立腺体積 50.7cc, 55.2cc (N. S.) であった。

【結果】平均手術時間は 75.7 分, 70.2 分 (N. S.)、平均レーザー照射時間は 33.7 分, 43.5 分 ($p<0.01$)、平均照射量は 308.2kJ, 221.6kJ ($p<0.01$) であった。CVP では全例で日帰りが可能であったが、1 例でカテーテル抜去 3 週後に血尿による尿閉のため入院加療を必要とした。PVP でも 1 例でタンポナーデによる尿閉で再入院後に止血術を行った他、3 例で尿閉のためカテーテルを再留置した。術後の膀胱頸部硬化症は CVP と PVP でそれぞれ 1 例ずつであった。

【結語】BPH に対する CVP は PVP と同等の治療効果が得られ、比較的短時間の手術のため、日帰り手術に適していると考えられた。

2-4. CVP 術中のリアルタイム排液温度測定

○青山 真人、山本 与毅、上川 禎則

大阪市立総合医療センター

波長 980 nm のダイオードレーザーは、照射部位の組織内温度を上昇させる。そして組織内温度が沸点に達してかつ気化熱に相当の熱エネルギーの発生が続くと蒸散が起こる。組織内水分は水蒸気の気泡となるが、すぐに還流液内で凝縮し液体の水に戻る。その際に凝縮熱が発生して還流液の温度を上昇させる。還流液が 40℃ 以上の高温状態が続くと下部尿路の蛋白熱変性を来しうる。CeralasHPD は、他の蒸散術に使用するレーザー発生装置よりも圧倒的な高出力機器であるので術中の熱産生量にも注意を払う必要性を痛感している。術者の習熟度、症例の難易度、膀胱鏡の太さ、イリゲーションチューブの種類、還流用ポンプの使用の有無により単位時間あたりのレーザー照射時間、照射熱量は、異なってくる。リアルタイムに排液温度を測定すれば、症例の難易度や術者の習熟度に合った inflow の温度を小まめに術中に変えることができる。我々の施設では、還流液の温度と流量に細心の注意を払って 180W～250W までの出力域も積極的に活用している。リアルタイム排液温度測定の具体的な方法を踏まえて報告する。

2-5. LEONARDO180 の使用経験

○河野 義之、小川 雄一郎

小林病院

CVP レーザーの新機種として、本年 6 月より最大 180W の LEONARDO180 の販売が開始された。LEONARDO180 は、最大出力 180W であり、従来の CVP レーザーよりも低出力設定となる為、手術時間の長時間化や適用する前立腺重量に対する制限が懸念される。当院における LEONARDO180 使用による利点と、これまでの CVP レーザーと比較して周術期成績（手術時間・レーザー照射時間・レーザー照射量）に差異が示されたかについて、本フォーラムにおいて検討する。

2-6. CVP における膀胱内に突出した中葉肥大に対する手術手技

○加藤 忍、渡邊 肇

かとう腎・泌尿器科クリニック

【背景・目的】当院では 2013 年 8 月に治験で CVP を導入し、現在まで約 6 年が経過した。手技で問題になるのは、膀胱内に突出する中葉の蒸散方法と考えている。今回のフォーラムでは膀胱内に突出する中葉の蒸散法についてビデオを供覧し、先生方のご意見をお伺いしたい。

【方法】現在は両側葉をまず蒸散し、最後に中葉の蒸散を行う手技を行っている。尿管口の位置を十分確認できるよう両側葉を蒸散し、残存する中葉を外側より中葉の中心に向かい蒸散する。中葉の処理は核出手技に慣れた術者から考えると精阜手前より膀胱頸部方向に逆行性に蒸散切除してゆく方法が最も効率的に思われる。しかし、蒸散のみで手術を終了する際、中葉を膀胱頸部から精阜方向に順行性に蒸散する場合には蒸散方向として頸部から横方向に蒸散する方法と縦方向に蒸散する方法の二通りがある。また摩耗したファイバーで最後に中葉の処理を行うのは非効率的というご意見もあるかと思う。

【結論】膀胱内に突出した中葉肥大症例に対する効率的な手技を論ずることはすべての術者の手術手技向上に役立つものと思われる。

前向き研究 中間報告

接触式レーザー前立腺蒸散術（CVP）の有効性と安全性に関する他施設共同前向き研究

○関 成人

九州中央病院

[目的]

CVP の治療効果と安全性を多施設において前向きに検討し、日本人に対する有用性を検証する。

[予定登録数と研究期間]

目標症例数：1000 例

研究実施予定期間：2018 年 10 月 1 日～2028 年 12 月 31 日

（登録期間：2018 年 10 月 1 日～2023 年 12 月 31 日）

但し、症例の集積状況により変更の必要を認めた場合には、CVP フォーラム世話人会の承認を経て期間を変更する。

[主要評価項目の解析と判断規準]

以下の項目に関して術前後で有意差検定を行う（ $p < 0.05$ を統計学的有意と判定）。

- ・ IPSS 合計スコアの変化
- ・ OABSS 合計スコアの変化
- ・ IPSS-QOL スコア の変化
- ・ 最大尿流量・排尿量の変化
- ・ 残尿量の変化

[参加施設]

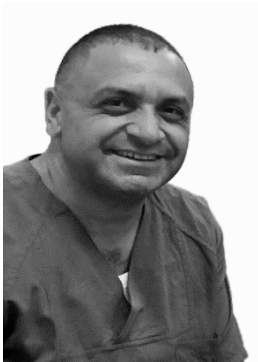
- ・ 日本赤十字社医療センター 泌尿器科
- ・ 慶應義塾大学病院 泌尿器科
- ・ 関西医科大学総合医療センター 腎泌尿器外科
- ・ 原三信病院 泌尿器科
- ・ 九州中央病院 泌尿器科
- ・ 鶴泌尿器科クリニック
- ・ かとう腎・泌尿器科クリニック
- ・ 大分泌尿器科病院
- ・ 小林病院 泌尿器科
- ・ 富山西総合病院 泌尿器科
- ・ 大阪警察病院 泌尿器科

特別講演

Smooth and gentle BPH laser treatment

○Hasan Igde

Vivantes Klinikum Am Urban, Germany



International KOL

Practice Berlin

Vivantes hospital Berlin Urban

Consultant Vivantes Klinikum Am Urban, Germany

接触式レーザー前立腺蒸散術フォーラム 会則

第1章 名称及び事務局

第1条 [名 称]

- 1) 本会は接触式レーザー前立腺蒸散術フォーラムと称する。
- 2) 接触式レーザー前立腺蒸散術の英語 Contact Laser Vaporization of the Prostate (CVP) から、略称は CVP フォーラムとする。

第2条 [事務局]

本会の事務局は国内に設置する。

第2章 目的及び事業

第3条 [目 的]

本会は CVP の普及と研究の推進に努め、泌尿器科診療の向上に寄与することを目的とする。

第4条 [事 業]

本会は第3条の目的を果たすために、以下の活動を行う。

- ① 研究集会を1年に1回以上で行う。
- ② 会員相互および泌尿器科関連学会との連携をはかる。
- ③ その他、CVP の普及と研究に必要な事業を行う。

第3章 会員

第5条 [会 員]

本会の会員は次の2種とし、正会員のみが議決権を有する。

正会員：本会の目的に賛同し、本会の活動および事業を推進するために入会した個人。

賛助会員：本会の目的に賛同し、本会を援助するために入会した団体または個人。

第6条 [会 費]

会員は、別に定める入会金および会費を納入する義務を有する。

第7条 [入 会]

- 1) 本会への入会には、本会の世話人会の承認を要する。
- 2) 承認手続きに時間を要する場合には仮入会を認める。

第8条 [資格喪失]

会員は以下に該当するときに、その資格を喪失する。

- ① 退会届の提出をしたとき
- ② 正当な理由なく会費を滞納し、催告を受けても納入しないとき
- ③ 世話人会の決議により除名されたとき

第9条 [退 会]

会員は、退会届を事務局に提出し任意に退会することができる。

第4章 役員

第10条 [役 員]

本会に以下の役員を置く。

- ① 代表世話人 1 名
- ② 世話人 5～15 名
- ③ 監事 1 名

第11条 [選 任]

- 1) 代表世話人は世話人相互による無記名投票により決する。
- 2) 監事は代表世話人が世話人から推薦する。

第12条 [職 務]

- 1) 代表世話人は、本会を代表し業務を総理する。
- 2) 世話人は、会則および世話人会の議決に基づき、本会の業務を執行する。
- 3) 監事は、本会の収支および財産の状況を監査する。

第13条 [任 期]

役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

第14条 [世話人会]

- 1) 本会の最高決定機関として、世話人会を置く。
- 2) 世話人会は代表世話人・世話人・監事により構成される。
- 3) 世話人会は、委任状を含む過半数の世話人の出席により成立する。

第5章 会計

第15条 [本会の経費]

本会の経費は、年会費・寄付金およびその他の収入を以って充当する。

第16条 [事業年度]

本会の事業年度は1月1日より12月31日までとする。

第17条 [決 算]

本会の決算は、毎事業年度終了後、代表世話人が監事の監査を受けた上で、世話人会の承認を受ける。

第6章 雑則

第18条 [期 間]

- 1) 本会の存続は成立より7年間（2024年末）とする。
- 2) 以後の継続については世話人会の議をもって決する。

附則

- 1) 本会会則は2018年1月1日より施行する。
- 2) 本会の入会費・年会費は以下の通りとする。

入会費：なし

年会費：①正会員 ： 2,000 円

②賛助会員： 20,000 円（1口）

3) 事務局は、日本赤十字社医療センター院長室に置く。

〒150-8934 東京都渋谷区広尾 4-1-22

代表番号：03-3400-1311（内線 2101）

4) 設立時の役員は以下の通りとする。

代表世話人：	本間 之夫	（日本赤十字社医療センター）
世話人：	松田 公志	（関西医科大学附属病院）
	高橋 悟	（日本大学附属板橋病院）
	山口 秋人	（原三信病院）
	加藤 忍	（かとう腎・泌尿器科クリニック）
	河野 義之	（小林病院）
	宮内 聡秀	（大分泌尿器科病院）
	関 成人	（九州中央病院）
	鶴 信雄	（鶴泌尿器科クリニック）
監事：	大家 基嗣	（慶應義塾大学病院）

2018 年 1 月 1 日制定

2019 年 4 月 18 日改定

CVP フォーラム 会員名簿

(五十音順)

(会員 68 名 賛助会員 1 社 / 2019 年 8 月 27 日現在)

[代表世話人]	本間 之夫	(日本赤十字社医療センター)
[世話人]	加藤 忍	(かとう腎・泌尿器科クリニック)
	河野 義之	(小林病院)
	関 成人	(九州中央病院)
	高橋 悟	(日本大学附属板橋病院)
	鶴 信雄	(鶴泌尿器科クリニック)
	松田 公志	(関西医科大学附属病院)
	宮内 聡秀	(大分泌尿器科病院)
	山口 秋人	(原三信病院)
[監事]	大家 基嗣	(慶應義塾大学病院)
[会員]		
	青山 真人	(大阪市立総合医療センター)
	安部 弘和	(亀田総合病院)
	石川 晃	(日本赤十字社医療センター)
	石崎 淳司	(旭川厚生病院)
	石松 隆志	(平山泌尿器科医院)
	牛嶋 壮	(京都府立医科大学大学院医学研究科)
	岡 清貴	(たかの橋中央病院)
	小田代 昌幸	(小田代病院)
	金岡 隆平	(たかの橋中央病院)
	金子 智之	(同愛記念病院)
	狩野 武洋	(医療法人野尻会 熊本泌尿器科病院)
	上領 頼之	(ひらやまクリニック)
	木下 秀文	(関西医科大学附属病院)
	木村 夏雄	(亀田総合病院)
	小糸 悠也	(関西医科大学附属病院)
	駒井 資弘	(関西医科大学総合医療センター)
	才田 博幸	(医療法人英幸会 鹿屋泌尿器科)
	作田 剛規	(仁榆会病院)
	佐藤 健	(つくばセントラル病院)
	佐藤 雄二郎	(日本赤十字社医療センター)
	篠島 利明	(慶應義塾大学医学部)
	杉原 亨	(東京都立多摩総合医療センター)
	鈴木 康一郎	(亀田総合病院)

鈴木 理仁	(川崎幸病院)
須山 一穂	(相模原赤十字病院)
関戸 哲利	(東邦大学医療センター大橋病院)
高橋 良輔	(総合せき損センター)
高本 均	(倉敷成人病センター)
田中 伸之	(慶應義塾大学病院)
恒川 琢司	(東光やわらぎ泌尿器科)
出嶋 卓	(九州中央病院)
友部 光朗	(つくばセントラル病院)
名嘉 栄勝	(西崎病院)
長岡 明	(米沢市立病院)
中川 徹	(帝京大学医学部附属病院)
中川 春夫	(泉中央病院)
長澤 丞志	(富山西総合病院)
中園 周作	(武蔵野赤十字病院)
中村 真樹	(東京大学医学部附属病院)
野尻 明弘	(医療法人野尻会 熊本泌尿器科病院)
野村 照久	(医療法人社団すずき会 鈴木・野村泌尿器クリニック)
野村 博之	(原三信病院)
林 睦雄	(たかの橋中央病院)
樋口 喜英	(愛仁会 千船病院)
平原 直樹	(京都きづ川病院)
平山 英雄	(医療法人英山会 平山泌尿器科医院)
福原 浩	(杏林大学医学部)
藤村 哲也	(自治医科大学医学部)
松本 明彦	(東京大学医学部附属病院)
宮寄 英世	(国立国際医療研究センター病院)
宮崎 啓成	(薬院ひ尿器科医院)
森山 正敏	(社会医療法人財団石心会第二川崎幸クリニック)
山田 大介	(東京大学医学部附属病院)
柚須 恒	(医療法人圭成会 大分泌尿器科病院)
横山 修	(福井大学病院)
横山 大司	(東京腎泌尿器センター大和病院)
吉岡 巖	(大阪警察病院)
吉村 耕治	(静岡県立総合病院)

[賛助会員] 株式会社インテグラル

【CVP フォーラム 事務局】日本赤十字社医療センター 院長室

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 TEL : 03-3400-1311 内線 : 2101

患者さん自らが持つ免疫力を、
がん治療に大きく生かすことはできないだろうか ――。
小野薬品とプリストル・マイヤーズ スクイブは、
従来のがん治療とは異なる
「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。

 小野薬品工業株式会社

 プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

2018年3月作成



私の免疫力に、
がんと闘う力を。

 Immuno-Oncology 未来をひらくがん免疫療法

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。

 **astellas**

アステラス製薬株式会社



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から支援活動にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp





前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤

薬価基準収載

ザルティア[®]錠 2.5mg / 5mg

タダラフィル錠
Zalutia[®]

処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、最新の添付文書をご参照ください。

ザルティア[®]およびZalutia[®]は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの登録商標です。



発売元(資料請求先)
日本新薬株式会社
京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14



製造販売元
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通5丁目1番28号

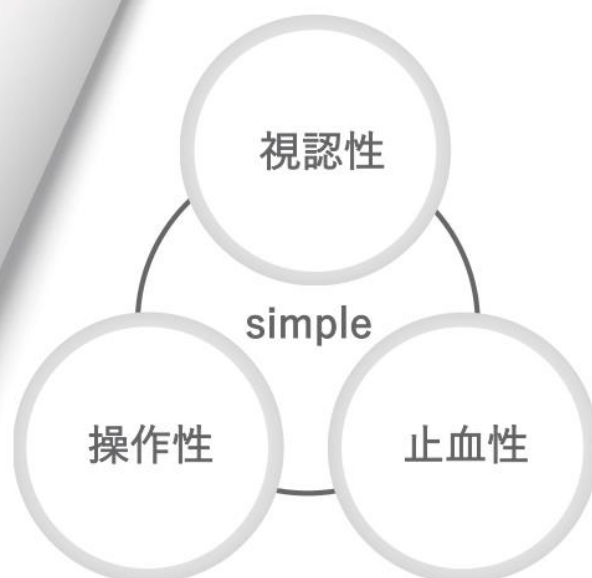
2018年8月作成 A4

Integral

980nm 半導体レーザー手術システム

Contact laser **V**aporization of the **P**rostate

「Simple」を追求した
デバイス設計と手術操作



LEONARDO[®]180

接触式レーザー前立腺蒸散術

bio
LITEC
biomedical technology



製造販売元 **Integral**
株式会社インテグラル
東京都品川区上大崎 2-25-2
TEL:03-6417-0810 FAX:03-6417-0853
<https://www.bphlaser.jp>



販売名：Ceralas HPD レーザー
医療機器承認番号：22800BZX00077000

Memo

Memo

